

#### 437 新しい腎イメージング剤 $^{99m}\text{Tc}$ -dimercapto-propionic acid(DMP) の臨床的評価

倉内洋文, 町田豊平, 大石幸彦, 柳沢宗利, 田中 彰, 島田 作(慈大 泌), 村田 啓(虎の門 核)

合成の簡易化, 被曝線量の軽減などを目的に, 各種腎イメージング剤の開発, 検討を行い報告してきた。第 21, 23 回の本学会ではわれわれが開発した腎イメージング剤  $^{99m}\text{Tc}$ -Dimercapto-propionic acid(DMP) の有用性について, 主として基礎的検討を行い報告した。

今回, 臨床例に  $^{99m}\text{Tc}$ -DMP による腎イメージングを行い臨床検討を行った結果を報告する。

対象は正常例 5 例, 各種泌尿器科疾患 50 例, 計 55 症例である。

$^{99m}\text{Tc}$ -DMP 2-5mCi を経静脈的に bolus 静注し, 血管相イメージ, 機能相イメージを撮影した。機能相イメージは静注 2-3 時間後に撮影した。

$^{99m}\text{Tc}$ -DMP による腎イメージは  $^{99m}\text{Tc}$ -DMSA イメージと比較し肝集積の高い傾向を認めたが, 正常例では良好な腎イメージが得られ, また, 高度腎機能障害例でもほぼ満足すべき腎イメージを得る事ができた。

$^{99m}\text{Tc}$ -DMP は腎イメージング剤として臨床応用可能であると考えられる。

#### 438 $^{99m}\text{Tc}$ -MDP による腎機能検査

尾形優子, 菱沼誠, 照井 瑠(仙台厚生病院) 吉岡清郎, 松沢大樹

佐藤多智雄(東北大抗研) 腎シンチグラフィに使用する  $^{99m}\text{Tc}$ -MDP は, 体内の燐酸代謝に基づき, 骨に集積するとともに腎からの排泄を受ける為, 腎シンチグラムにおける腎の描出は, 腎に関する情報を与え得る。当病院では, 悪性腫瘍の骨転移の検査及び治療効果の判定を目的とする腎シンチを年間約 400 例施行している。化学療法施行中の患者では, 抗癌剤による何らかの腎障害をみることが多い。文献的に MDP と DTPA との相関から, 腎シンチの依頼時に化学療法を施行している患者を対象に,  $^{99m}\text{Tc}$ -MDP 投与時, γカメラレノグラフィを試み, 約 60 例の症例を経験している。化学療法施行の患者では薬剤による腎機能低下を反映していると思われるレノグラムが認められ経時変化の観察にも有効だった。腎機能検査に MDP レノは有用な手法だ。

#### 439 各種副腎腫瘍における副腎スキャンの検討

吉越富久夫, 町田豊平, 大石幸彦, 上田正山, 木戸 晃, 田代和也, 鳥居伸一郎, 吉田 希(慈大 泌)

副腎腫瘍の局在診断は手術のさい特に重要である。我々は各種副腎腫瘍における副腎スキャンの局在診断の有用性について検討した。

対象は手術を施行し得た副腎腫瘍 34 例で, 原発性アルドステロン症 16 例, Cushing 症候群 7 例, 褐色細胞腫 9 例(うち Sipple 症候群 2 例), 神経節神経腫 1 例, 副腎癌 1 例であった。

原発性アルドステロン症および Cushing 症候群の全例, 褐色細胞腫 7 例, その他の 2 例に  $^{131}\text{I}$ -Adosterol による副腎スキャンを, Sipple 症候群 2 例に  $^{131}\text{I}$ -MIBG による副腎スキャンを施行した。

$^{131}\text{I}$ -Adosterol による副腎スキャンを施行した 32 例中 24 例で局在診断が可能であった。原発性アルドステロン症 6 例, Cushing 症候群, 褐色細胞腫, 神経節神経腫, 副腎癌各 1 例で局在診断が不可能であり, 原発性アルドステロン症の 6 例中 2 例は抑制スキャンでも不可能で, 4 例は抑制スキャンを施行し得なかった。 $^{131}\text{I}$ -MIBG による副腎スキャンを施行した Sipple 症候群 2 例中 1 例で局在診断が可能であった。

#### 440 SPECT による副腎 I-131-アドステロール摂取率に関する検討。片側副腎描出例における臨床的意義—

石村順治, 末廣美津子, 立花敬三, 福地 稔(兵庫医大 核, RI)

我々は SPECT による副腎アドステロール摂取率測定の臨床的有用性につき, 本総会等で報告した。今回は, 片側副腎描出例が必ずしも副腎皮質機能亢進によるとは限らない事に着目し, かかる症例における副腎アドステロール摂取率測定の意味につき検討した。

対象は片側副腎描出例 12 症例で, 内訳は副腎腺腫 2 例, 副腎皮質過形成を伴う褐色細胞腫 1 例, 反対側副腎摘出症 5 例, 原発性および転移性副腎癌 3 例, その他 1 例である。方法はすでに報告したスタンダード法によった。

片側副腎描出例における副腎アドステロール摂取率は 0.3% から 3.1% に分布する成績が得られた。これを副腎皮質機能別でみると, 副腎腺腫および褐色細胞腫の機能亢進例では 1.1% から 3.1% の範囲を示し, 平均  $1.97 \pm 0.84\%$  であった。これに対し機能亢進によらない片側描出例では 0.3% から 1.0% の範囲を示し, 平均  $0.64 \pm 0.28\%$  であった。以上の成績から, かかる症例での本法の有用性が確認出来た。